

令和5年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和5年7月18日（火）10:00～11:00

2 場 所 福知山公立大学4号館4階会議室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保職務代理 (会場参加) 菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	田村室長、谷口次長、足立課長補佐、塩見主査、吉田職員
福知山公立 大学	川添理事長兼学長、西田理事兼副学長、倉田理事兼副学長兼地域経営学部 長、池野情報学部長、畠中教授、倉本教授、山田教授、岸本事務局長、小林 GM、内田GM、荻野GM、竹元AM、中尾AM、神代AM

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 公立大学法人福知山公立大学 令和4年度業務の実績に係る 評価業務実績評価について	評価委員から公立大学法人への意見、質疑等。

5 次第

(1) 開会

(2) 開会挨拶 青山委員長

(3) 議題 公立大学法人福知山公立大学令和4年度に係る評価業務実績評価について

(委員)

- 評価のポイントや評価の中で感じたことについて各委員からコメントをいただいた後、大学のヒアリングを実施する。(委員) から順に実績評価をして感じたことについてご発言を。

(委員)

- 私は開学以来評価委員として関わっているが、その時から振り返って、初期は手探りで、また、旧大学を引きずりながらでしんどい時期であったが、その中で膨大な中期計画、年度計画の項目があり、法人の方でも大変ご苦労された。初期の頃は大変厳しい辛辣な意見も言わせていただいたが、年々内容が充実されて、今年度は特に実施状況が簡潔に記載され、詳細なデータも示されている。また、過去10、20とあった再掲も減ってきている。これは大学の努力のおかげだと評価している。今年から評価方法が変わり、全体によくできているという自己評価ができてきて、評価委員会としてもそれを尊重しなければならないと思いながら評価を行った。この評価制度で重要なことは、大学の強みと弱みを明確にして、大学の行く末を見ながらPDCAを回すということ。評価が良ければそのままよいという事ではない。今後、大学院や教職課程の設置など、新た

な局面に向かって、福知山モデルを創設されるにあたり、法人とコミュニケーションを取りながらより良いものになればと思っている。地方独立行政法人法では大きな改正があったので、こちらでも意見交換をしながら進められればと考えている。

(委員)

- 年度計画に対する実施状況が読みやすかった。いくつか年度計画に対する評価が読み取りにくかった項目があったが、非常に少なかった。市民の一人として大学が誇りと思えるようになってきたという実感がある。一方、大学がある意義を実感していない市民もいると感じる。今後、大学の努力が市民に伝わり、市民が誇るべき大学となればよいと思う。

(委員)

- 委員になって歴も浅く、まだまだ分からないことが多い。今回の評価は4, 3が多いが、4, 3をどう解釈しながら見ていくかという点、少し不安な部分もある。福知山市に大学があるという事、福知山市にとって魅力の一つとなってほしいし、北近畿地域から福知山公立大学に進学してくれた学生が、またこの地域に根差して生活してくれる、という流れができてほしいと思う。

(委員)

- 全体として評価しやすかったと感じたが、逆にわかりにくい部分もあった。福知山モデルという言葉が頻繁に出てきたが、理解しづらかった。今後福知山モデルがどうなっていくのか、方向性が見えない。大学が主体になって形作っていくのか、という議論が昨年からあったと思うが、私としては今年度のものを読んでいても分かりづらかった。昨年度数値化してほしいと意見していた点は、今回ある程度数値化してもらっていたのでわかりやすかった。

(委員)

- 過去に比べると評価項目が精査され整理されてきた。また、再掲も少ない。私は今回の評価の中で、地域との連携、地域との協働を改めていく必要があると思う。福知山公立大学は北近畿全体では大きな役割を果たすようになってきた。教員と学生が地域に入っていく、対話をしていくという活動ができてきた。これが福知山モデルかとも思う。福知山モデルが今後他とどう違うかということ福知山公立大学で差別化して目指してもらえると良いかと思う。
- 質問については回答書で丁寧に答えていただいているが、委員の皆様からさらに詳しく聞きたい部分、質問などがあれば発言を。

(委員)

- 2点質問がある。1点目は教職課程設置について、2点目は大学院設置について。教職課程については、文部科学省に申請するとき、実習先の確保が問われると思う。教育実習は母校を避けるようにと中央教育審議会からもコメントが出ており、全国から来た学生が三丹地域で実習をすることになると思うが、実習先は確保できるのか。また、教職課程設置は地元からの期待も大きいところだが、福知山市が設置する公立中学で福知山公立大学で教員免許を取得した学生を優先的に採用するようなことは考えているか。参考だが、大阪公立大学では、大阪教育大学、大阪府教育委員会と協定を結んで、特定のプログラムを受講した大学院生を対象に採用試験で10点加点するような優遇措置を設けている。

2点目の大学院について、地元の舞鶴工業高等技術専門学校からの学生受入れも検討すべきだと思うが、例えば、内部推薦制度を特別推薦と呼んでよいのか。他大学の大学

院に出て行ってしまふような優秀な学生向けにインセンティブを用意する考えがあれば聞きたい。

(大学)

⇒まず母校実習については本人の希望もあるが、校長会等の協力を得ながら北近畿地域での教育実習をできるように考えている。具体的にはまだ進めていないが、来年度設置申請を実施する過程で、実際に学校と話しをしたいと考えている。数学の教職課程については中学の免許も視野にいれているので、福知山市教育委員会に実習先確保の協力を依頼することを検討している。

優遇措置については、大学が単独でできることではないので、これから市・大学政策課や教育委員会とも話をしていければと考えている。数学の教育課程について、中学の免許課程を設けることはかなり無理があるが、地元の期待に応えるためにも同時開設を目指して努力している。

(委員)

- 理解した。いい形で成就させていただきたい。

(大学)

- 教職課程の質問に関連して、公民の課程については今回断念した理由を教えてください。

(大学)

⇒公民単独の採用が少ないこともあり、地歴を同時にやらないと意味がないだろうという点を踏まえ、現状の教職員では対応できないと判断した。

(大学)

- 大学院についての質問は、設置準備委員会の(大学)から説明を。

(大学)

⇒高等高専についてはどのような進学形態になっているかヒアリングを実施した。高等高専では、高校、専門学校を出た後、専修科を受けて、その後大学院に進んでいるが、専修科の間に行きたい大学のヒアリングを学生に実施しており、進路を決めてから行くという事が分かった。福知山公立大学は新設の大学院なので、高等高専などを対象に研究会の交流などを進めて地盤を固め、その上で学生を確保することが先決。舞鶴高専とは具体的な話を進めている。

内部推薦進学の仕組みについては具体的に検討していない。

(委員)

- 編入学も含めて高専との連携を検討されていると思う。内容理解した。

(委員)

- 評価書の番号で6番と7番のところについて、実績報告の内容がほぼ同じだが自己評価がそれぞれ3と4になり異なっているのはなぜか。両方3になるか、両方4になるかどうかではないか。

(大学)

⇒情報は設置をすでに決定して準備を進めていたが、数学は設置の検討状態にあったものを、検討を重ねて設置に向けた準備に入ったという点で大きな進歩と自己評価した。公民については設置見送りと結論を出したので、いずれにしても以前より進歩があったと考えている。

(委員)

- 評価書の34番について、数理データサイエンス応用基礎レベルに認定されたという部分について、すべての大学で認定を受けているものではないという説明を前回の評価委員会でも受けていたが、自己評価を3とされている。4でよいのではないか。

(大学)

⇒認定されたことだけを取り上げて4と評価するのは難しいと判断し、3としている。

認定を受けただけでなく、このことにより教育レベルが想定していたものに達したかどうかが重要と考える。

(大学)

⇒リテラシーレベルは一昨年度、応用基礎レベルは昨年度認定を受けた。既にあるカリキュラムを使って粛々と認定を進めたという理解。リテラシーレベルは文部科学省の要求では全員履修させ全員認定できるように教育をせよ、となっているが、現状では累計で250人となっている。本来累計600人が履修しているべきものであり、自己評価3については納得している。2つのコースを両方認定されている大学は、公立大学では4校しかないので価値があることだとは考えている。

(委員)

- 理解した。

(大学)

- 先ほど話題に上がった、自己評価の3と4の境界について、4は「格段に上出来であった」、3は「順調に実施した」という形でとらえている。大学側としては、目標を明確に上回ったものだけを4としている。

(委員)

- 地域経営学部は新町商店街エリアの活性化の取組をされているが、広小路も含めた商店街エリアの活性化の活動目標などがあるのか。

(大学)

⇒新町商店街にはサテライトキャンパス吹風舎を置いているが、地域活性化の意味などであの場所にあるわけではない。

(大学)

⇒福知山公立大学は市街地から離れているため、市民と学生や教職員が交流できる場所を設けるという目的で、新町商店街に場所をお借りして設置した。今後どうしていくかということについては、明確な目標はないが、福知山モデルを目指す中で、地域との協働によって何ができるかという事を考えていきたい。

(大学)

⇒大学には地域の方は期待している。商店街活性化について、サテライトキャンパス吹風舎が何かしてくれるという誤解を生まないように、説明など必要。

(委員)

- 空き家を使って学生と地域の交流の場を設ける例は他大学でもある。パンフレットを見ていると、吹風舎はうまくプログラムを組んで活用されているという印象を受ける。設置することによって一足飛びに地域が活性化するというのではなく、そこで学生が地域の方と触れ合いながら何か生まれてくることを期待するという事だと思っている。

(大学)

⇒本学の場合は教授クラスの教員がそこを拠点に教育を展開しているという点が非常に大きなポイント。いろいろな仕掛けを展開しており、全て成功という事ではないが、それが積み重なって力になっているということを強く感じている。

(委員)

- 最後に私から2点。1点目、Slackを導入されて内部のコミュニケーションツールとし、

学内の決裁も電子化されたと思うが、例えば外部との連絡やコミュニケーションはどうしているのか。問題は出ていないのか。

2点目、入試のパンフレットを見ていて地域協働というところで、いろんな活動を展開されているが、同じ教員の名前がたくさん出てきている。一部の教員に負担がかかっていることはないか。

(大学)

⇒Slack について、当初は教員限定で導入して、その後、職員に広げた。また、情報学部用 Slack (全学教職員 Slack とは別) においては、400人の学生と教員が全員近く入っている。利用料金負担についての検討は必要であるが、今後継続していきたい。外部とのやり取りについてはメールでやっている。そこにストレスがないよう今後改善したい。

2点目の特定の教員への負担に関しては、学内ではウェルビーイングを重視しており、特定の人に負担が集中して燃え尽きてしまうことは避けなければならないと考えている。現状ではやる気のある教員のところに案件が集まっているという事がある、という事だと認識している。

(委員)

- 他に委員から質問が無ければ、以上でヒアリングを終了とする。

(4) 閉会